

4. 3 生態系の人為的な攪乱状況 (国外外来種の分布状況)

鳥類の場合は、渡り鳥のように自ら大移動を行う種も多くいますが、アヒルなどのように家禽と飼われていたものや、ベニスズメなどのようにペットとして飼われていたものが逃げ出し、野生化して自然界へ広がっている例がみられます。

このような国外外来種が生態的に優勢な場合、在来の生物種を圧迫したり、自然界では起こらない交雑によって地域で保有されていた固有な遺伝子の喪失をもたらしたりすることで、生態系へ様々な影響を与えることが懸念されています。ここでは、人為的な生態系の攪乱を明らかにするために、国外外来種ではありますが同時に馴染み深い種でもあるコブハクチョウ、アヒル、ベニスズメ、また、特定外来生物に指定されているソウシチョウ、ガビチョウなどの確認状況について整理しました。

【国外外来種 (アヒル、ソウシチョウ) の確認状況】

(鳥類調査)

・ 国外外来種のアヒルを 7 河川で多数確認

今回確認された国外外来種のアヒル、特定外来生物のソウシチョウについて確認状況を整理しました。

アヒルは北陸地方から九州地方の 7 河川で確認されました。ソウシチョウは近畿地方の淀川水系木津川で確認されました。

(資料掲載: 4-37 ~ 39、4-41 ~ 42 ページ)

確認河川数の比較 (対象河川: 13 河川)

種類	前々回 調査	前回 調査	今回 調査
アヒル	5 河川	6 河川	7 河川
ソウシチョウ	0 河川	1 河川	1 河川

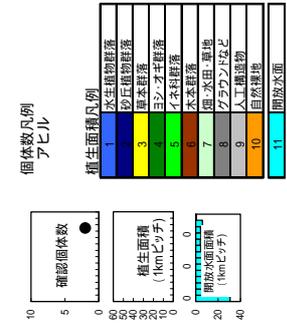
集団分布地、移動時の確認を含む。

アヒルは、食肉と卵を取るためにマガモから品種改良された鳥類であり、農家などで飼育されていますが、逃げ出して野生化しています。

アヒルは、本州以南の 1 級河川 7 河川で確認され、河川数は前々回、前回とほとんど変わりませんでした。個体数の多い河川は、九州地方の緑川でした。

特定外来生物に指定されているガビチョウ、カオジロガビチョウ、カオグロガビチョウは、いずれも東アジア、東南アジアを原産とする種ですが、主に鳴き声を楽しむためのペットとして輸入されていました。ソウシチョウも、東アジア、東南アジアを原産とする種で、観賞用のほか、伝統的な化粧品であるウグイスの糞の代用品として飼育されていたこともあります。いずれも飼育個体の逃亡ないしは故意の放出が、野外への定着の主因であるとされています。主に低地林に定住し、これらの種が優占しているところもみられ、長期的には在来種への直接・間接の負の影響も懸念されています。

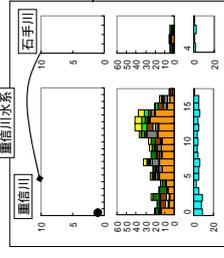
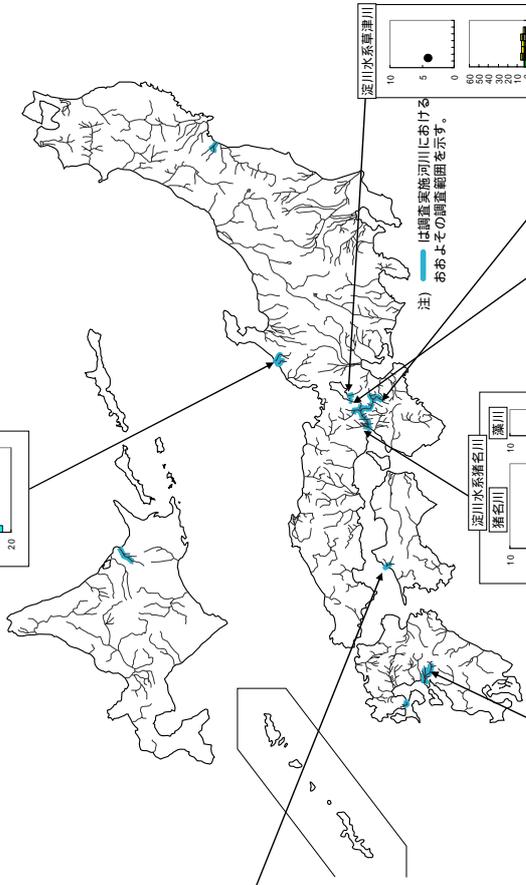
今回の調査では、特定外来生物のガビチョウ、カオジロガビチョウ、カオグロガビチョウは確認されませんでした。ソウシチョウは、近畿地方の淀川水系木津川で 2 個体確認されました。



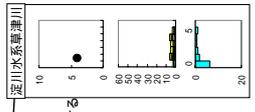
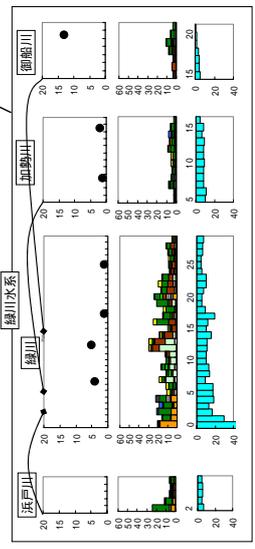
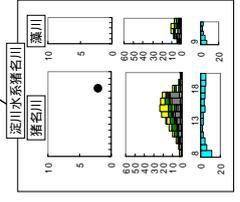
注1) スポット調査点で確認された河川のみ表示した。
 注2) 種生面積は各河川の最も近年に行われた河川水辺の回遊調査(植物調査)の結果を用いた。

河川名	調査年度	河川名	調査年度
扇走川	2002	木津川	2002
名取川	2005	野洲川	2002
手取川	2002	淀川	2002
榑川	2002	重信川	2002
瀬田川	2005	本明川	2002
菅津川	2005	緑川	2005
瀬名川	2004		

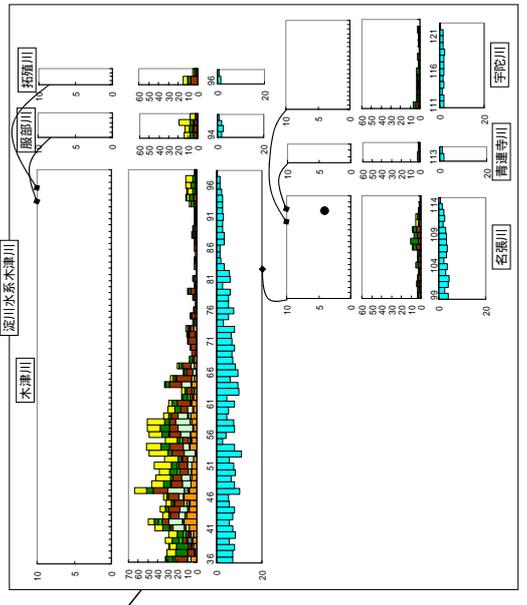
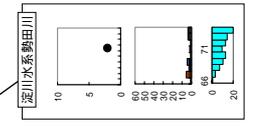
注3) ◆は各河川の合流点のおおよその位置(河口からの距離)を示す。
 注4) 集団分布地調査および移動時確認は含まない。



注) 重信川のアヒルはアイガモ(マガモとアヒルの交雑種)として報告されているが、ここではアヒルに含めた。



注) は調査実施河川におけるおおよその調査範囲を示す。



個体数/ソウシチヨウ



植生面積凡例

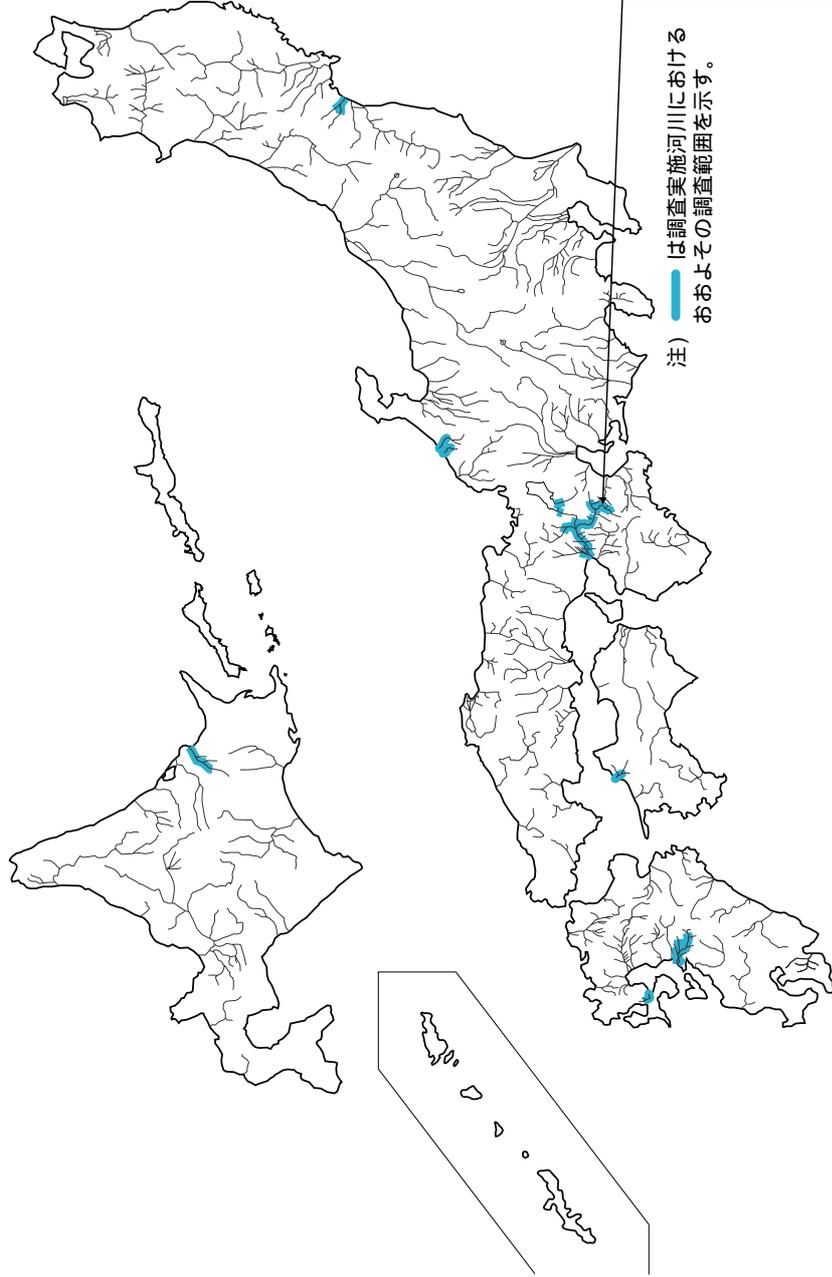
1	水生植物群落
2	砂丘植物群落
3	草本群落
4	コナエギ群落
5	イネ科群落
6	木本群落
7	開水田・草地
8	ワケツツなど
9	人工開墾地
10	自然開墾地
11	開放水面

注1) ボット調査点で確認された河川のみ表示した。
 注2) 植生面積は各河川の最も近年に行われた河川水辺の国勢調査(植物調査)の結果を用いた。

河川名	河川名	植物調査実施年度	河川名	植物調査実施年度
駒走川	木津川	2002	名取川	2002
名取川	野洲川	2002	藤川	2002
藤川	重信川	2002	木津川	2002
木津川	本明川	2002	蒲津川	2005
蒲津川	篠名川	2004		

注3) ◆は各河川の合流点のおよその位置(河口からの距離)を示す。

注4) 集団分布地調査および移動時確認は含まない。



注) 調査実施河川における
 およその調査範囲を示す。

